

はしかの流行について

3月より麻疹（はしか）の患者が増えています。国立健康危機管理研究機構の4月5日の速報値で患者報告数が今年に入り236人で、前年の同じ時期に比べ3.5倍となっております。2020年以降で最大のペースとなっております。

はしかは感染力が非常に強いのが特徴で、感染後症状が出るまでに平均10日前後かかり、発熱や咳などの症状の後、高熱が続き発疹が出ます。約10000人に1人の割合で脳炎などの重篤な症状となり、場合によっては亡くなることもあります。回復して数年から10年ほどたってから重い知的障害や運動障害が出る場合もあります。特效薬はなく、対症療法しかありません。海外で感染した人が国内に持ち込んだウイルスが広がっていると考えられています。4月は都内の小学校でも集団感染が発生しています。今後本校でも発生する可能性があることから以下の点について各家庭でもご確認ください。

予防方法

手洗いやマスクの着用はほとんど効果がなく、2回のワクチン接種が有効で、重症化を避けられ周囲への感染させる力も弱くなるとされています。麻疹と風疹の混合ワクチン（MRワクチン）を、1歳と小学校入学前の計2回の定期接種で受ける必要があります。MRワクチンを1度受けたことがない、または1回しか受けたことがない人は、主治医の先生に相談して麻疹の抗体があるかどうかを調べ、必要ならワクチン接種をお勧めします。その場合、公費負担制度に該当する可能性があるため、区のホームページを確認してください。今後必要に応じて生徒の皆さんの予防接種歴や罹患状況を調査する予定です。

麻疹が発生したら

- ・麻疹またはその疑いがある場合は速やかに学校にご連絡ください。出席停止の扱いとします。
- ・また、感染の疑いがある場合は、登校を控え、検温をして37度5分以上の場合は麻疹の可能性があるため欠席し、速やかに医療機関を受診してください。
- ・麻疹の疑いで医療機関を受診する際は、直接受診せず、必ず事前に電話の上、学校や家族などで麻疹が発生していることを伝え受診の方法を確認してください。

以上、どうぞよろしくご協力ください。